

各位

株式会社キノファーマ

**新規抗ウイルス薬の欧州におけるウシパピローマウイルス感染症に対する特許許可取得に関して****－ ヒトおよびウシのパピローマウイルス感染症治療薬開発を加速 －**

株式会社キノファーマ（以下、当社）は、開発中の新規抗ウイルス薬について、ウシパピローマウイルス（BPV）感染症に対する特許が欧州で新たに許可されましたこと（特許査定による許可通知の受領）をお知らせします。今後、当該特許の登録の手続きを行い、権利化が完了する予定です。今後、欧州以外の地域でも特許化の対応を進めていく予定にしております。

当社が開発中の本新規抗ウイルス薬は、ヒト宿主因子をターゲットとする新しいコンセプトのヒトパピローマウイルス（HPV）に対する抗ウイルス薬であり、HPV 感染が原因とされる子宮頸部上皮内腫瘍（CIN）や尋常性疣贅を対象として開発を進めるとともに特許の権利化も進めてきております。当社では、本新規抗ウイルス薬が HPV のみならず BPV 含め DNA ウイルスに対して広く効果を示すことを確認してきており、今回の BPV 感染症に対する欧州での特許取得を受け、本新規抗ウイルス薬を BPV 感染により発症するウシ乳頭腫症に対する開発パイプラインとして事業化を進めていくことを決定いたしました。

---

**ウシパピローマウイルス(Bovine Papillomavirus , BPV)について**

BPV はウシに感染して乳頭腫（イボ）を引き起こす DNA ウイルスです。現在、少なくとも 15 の型（BPV-1～15）が知られており、BPV の型により発症部位や病変の性状が異なる特徴があります。

**ウシ乳頭腫症について**

ウシ乳頭腫症は、BPV 感染によりウシの乳頭や皮膚（頭部、頸部、四肢等）、粘膜（口腔、舌、消化管等）などに乳頭腫（イボ）が形成される感染症です。ウシ乳頭腫症の罹患率に関しては、地域や農場により数%から 50%以上までの報告がありますが、特に若齢牛での高発生率を示す報告が多い状況です。

罹患した乳牛においては乳房炎等による健康被害のみならず、乳頭病変によって搾乳困難となり作業の効率低下や乳質の悪化を招くことが報告されています。また、肉牛においても乳頭腫

形成に伴う外観的影響による市場価値の低下に加え、乳頭腫の形成に伴う摂食や運動への障害が成長・肥育に影響を及ぼすことも報告されています。

罹患ウシの隔離などの環境整備や衛生管理のためのコストがかかるほか、乳製品や肉用としての商品価値の低下、経営効率の悪化などもあり、酪農家更には畜産業にとっても、経済面、事業面で非常に大きなネガティブインパクトを及ぼす疾患となっています。

現在はウシ乳頭症に対して確立された有効な治療法がなく病変部の切除や待機的管理が中心となっていますが、有効な治療薬の登場により、早期治療による拡散防止、再発リスクの低減、搾乳効率の向上等が期待されています。

---

## 当社について

キノファーマは京都大学等との産学連携によって医薬品開発に取り組んでいる大学発ベンチャーです。宿主因子をターゲットとしウイルスの増殖を抑制する新しいコンセプトの抗ウイルス薬開発に取り組んでいます。子宮頸がんの前がん病態である子宮頸部上皮内腫瘍や尋常性疣贅・尖圭コンジローマなどの、HPV感染を起因とする各種疾患に対し治療薬を開発していることに加え、致死性ウイルス感染症や次世代パンデミック・ウイルス感染症への治療薬開発にも取り組んでいます。

今回のBPV感染症に対する特許取得は、当社の抗ウイルス薬開発における重要なマイルストーンであり、ヒトと動物、双方の健康課題解決への貢献をさらに加速させるものと確信しております。

---

## お問い合わせ先

株式会社キノファーマ 経営管理部

メールアドレス：info@kinopharma.com